# センターだより

第74号
発　行
平成23年1月

うっすらと雪化粧した鶴見岳

## 目次

・新たな出発（たびだち）……2
・訓練機器紹介……3
・車いすマラソン大会……4
・車いすマラソン大会に参加して（利用者、終了生）……5
・ツインバスケットボールクラブ、ボッチャクラブ対外試合報告…6
・文化祭、ホタルの答礼、職能訓練作品の展示……7
・終了生の状況、職員異動、利用者募集のご案内……8

指定障害者支援施設
国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
別府重度障害者センター

# 新たな出発（たびだち）

所長　中村　欣三

利用者、職員に見送られ今日も一人センターを出発して行きました。

正面玄関での別れの挨拶では途中で涙声になり傍らで見守っていた奥さんも目頭をハンカチで拭っています。皆が見守る中、車上の人となり拍手と別れの声に見送られて車は門を出て見えなくなりました。

センターでは毎月のようにこのような光景が繰り返されます。昨年1年間で37名の方が訓練を終え出発していきました。

身体に障害を負うということは本人、家族にとって大変なことです。それまで元気に通勤、通学していたのにある日突然、事故に合い気づいたら身体が動かなくなっているのです。それまでは毎日何気なく行えていた動作が自分ではまったく出来なくなり人手を借りなければならなくなるのです。本人も絶望の淵に立たされるでしょう。家族にとっても大変な悲しみです。

太田さん（仮名）もそのような一人です。入所してきた時は「チンコントロール（あご操作）の電動車いす」、食事も「マイスプーン（食事支援ロボット）」を使って行っていました。入所中は褥そうのため何度も長期間、訓練が中断しそれでもくじけることなく2年近いリハビリ期間をやり遂げました。その結果、移動はスティック操作（手動）の簡易電動車いすになり食事も機械に頼らず自分の手で摂れるようになりました。その上、実務に繋がるパソコン操作技能を身につけました。体育館ではボッチャゲームを楽しみました。そして家族の待つ家庭へ戻っていったのです。

利用者が出発していくことは一抹の寂しさもありますが目標を達成しあれも出来るようになった、これも出来るようになったと喜びの中で家族と共にセンターを出発していく姿を見るのはセンターの職員にとっても大きな喜びでありこれからの励みにもなります。

センターでは頸髄に損傷を負った方のリハビリを専門に行っています。諦めないで勇気をだしてセンターを利用してみませんか。

# 訓練機器紹介
# プライマスRS

理学療法部門

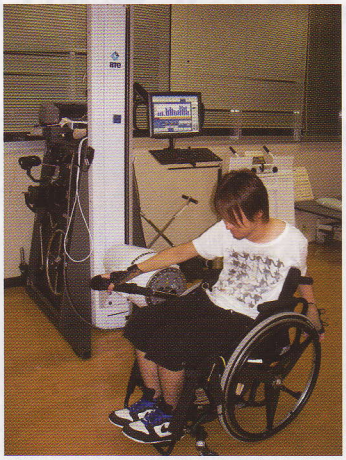
当センターでは以前より、プライマスにてコンピューター制御の最先端の筋力評価・訓練システムを導入しています。この度、訓練機器の更新を行いましたので紹介します。

プライマスRSシステムは膝、股、肘などの大きな単関節の計測はもちろん、足、手関節などの比較的小さな筋群の評価および指などの多関節運動評価も可能です。特にクローズドキネティックチェーンの評価、ワークシミュレーター、ADLの機能回復訓練や、ケーブルカラムを用いたリフティング評価を1台で行え、リハビリテーション機器、総合筋力評価解析のための機器です。

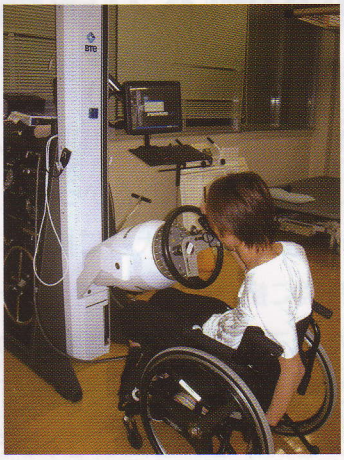
ワークヘッドは電動式で昇降し、43cmから16cmまでの範囲で自由に高さが調節できます。また、方位、車いすなど、座位での計測時のポジショニングも可能で、当センターの利用者は車いすのまま、評価及び訓練を行うことが出来ます。さらに、ワークヘッドの軸は360°回転し、自由な位置での可動域設定が行えます。最大角速度、4500°/秒での評価や計測もできるため、筋出力の低い被験者から高い方まで、広範囲にカバーします。また、日々の訓練成果の記録が残り比較することが出来、目的を持って訓練を行うことが出来ます。

プライマスRSを使用することより単に利用者の筋力を評価・測定するだけでなく、利用者の機能を的確に評価・測定し、的確な訓練を手順よく行い、出来るだけ早く利用者の機能を回復させる補助となります。プライマスRSは評価・測定と訓練の両方の機能を備えており、当センターでは利用者のリハビリテーション初期の段階から社会復帰直前まで一貫したリハビリテーションの評価・訓練機器として使用しています。主に使用している動作は、プッシュアップ動作に必要なプッシング・自動車関連動作のハンドル旋回・頸髄不全損傷者の膝の屈伸運動などです。

今後も客観的に評価・訓練を行え、センター利用者に有効であろう機器の情報収集や設置などを可能な限り行っていきます。



プッシング動作



ハンドル旋回

# 第30回記念大分国際車いすマラソン大会

スポーツ訓練　木畑　聡

「晴れ男なんですよ。」そんな黒島さんの言葉どおり、第30回記念大分国際車いすマラソン大会は、暖かく風も弱い絶好のコンディションの下、11月14日午前11時に大分県庁前をスタートしました。昨年一昨年と、冷たい雨に泣かされた大会だっただけに久しぶりの良いコンディションに選手たちの走りに期待がふくらみました。

センターからは、比嘉さん黒島さん2名の出場です。沖縄出身のお二人は、今年の6月に行われた大分県障害者スポーツ大会でも100m走で同じ組で戦ったり、ツインバスケットボールクラブでお互いに技を磨くなど、周囲からは「ライバル同士」と見られています。特に黒島さんは年上の比嘉さんに"負けたくない"そんな思いがいつも伝わってきます。

今回は、練習開始時期が遅かったこともあり例年よりも準備期間が短かい中、比嘉さん黒島さんのお互いへの意識が大きな力となり、なんとか大会にコンディションを合わせることができました。スタート前にはお二人で「3km地点の弁天大橋は超えよう」と話し合っていたようです。

当日は、絶好のコンディションもあり、気負うことなくスタートを切ることができました。記念大会ということでご参列された皇太子殿下に見守られながら舞鶴橋を超え、目標としていた3km地点の弁天大橋どころか5kmの関門まで走ることができました。5kmの関門を通過し最終目標であるゴールにたどりつくことは残念ながらできませんでしたが、練習で培った力は十分に出せたようです。

比嘉さんも黒島さんも、大会後も練習を続けており、大会で何か感じ、先を見据えているようにも見えます。続けることはいろいろと大変ですがぜひチャレンジして欲しいものです。

センターOBも15名前後の方が参加されました。普段の練習も大変な中、大会のスタートラインに立つことは本当に大きなチャレンジだと思います。皆さんの元気な姿をセンター利用者も頼もしく思っています。また、職員としては利用者の方々がOBの皆さんのように社会で元気に活躍できるようなお手伝いができればと思い、気持ちも新たに引き締まる思いがした大会でした。

# 第30回大分国際車いすマラソン大会に参加して

**（利用者　黒島　祥伍さん）**

11月14日（日）第30回大分国際車いすマラソン大会に初出場しました。今年の夏ごろから本格的な練習を始めて、約3カ月しか練習できずに大会に挑みました。結果は5キロ地点で時間制限に掛かり完走できませんでした。しかし、目標にしていた弁天大橋越えはできたので満足してるんですが、やっぱり悔しい気持ちのほうが強いです。沖縄に帰ってもマラソンを続けていきたいです。そしてリベンジしたいです。

（利用者　比嘉　康二さん）

号砲を機に周りのレーサーが駆け出して行った。気が付くと、最後尾でパトカーに追われていた。車いすマラソンの練習を始めて約4ヶ月。十分に練習が出来たとは言えないが、やることは只ひとつ。前に進むこと。いや、前にしか進まない。

沿道を隙間なく埋め尽くすほどの観客、可愛い子供達の「頑張れ!頑張れ!」という声援や大会ボランティアの多さに、『大分って凄い!』と驚きを感じながら、少しずつ前へ。

難関の舞鶴橋や弁天大橋では苦手の登り坂が壁の様に見え、少し心が折れそうになったけど、その周りの声援が力となり、目標の弁天大橋を走破することができました。

完走はおろか5km制限時間内での通過も達成出来ませんでしたが、多くのサポートによってこの大会に出場できたこと、ここで得た経験は、私の人生の糧になるのは間違いありません。

今回、この機会を作って下さった黒島くん、木畑先生ほか皆に感謝です。また、この大会に帰って来れたらと思います。

（終了生　長崎　裕也さん）

2010年11月15日午前11:00、ここ数年なかった晴天の中で大分国際車いすマラソンがスタートした。

今回、私はフルマラソンの部に参加した。『T51クラス』、障害程度の一番重いこのクラスでは私を含め4人だけのエントリー、フルマラソンの部はここ数年、完走者が出ていない。そんな厳しい競技にあえて挑もうと考えたのは、ずっと心に決めていたことを実現するためだった。

私がこの車いすマラソンという競技に出会ったのは国立別府重度障害者センターにいたときだった。きっかけは友人の軽い誘い、競技用車いすに乗るだけの軽い気持ちだった。しかし、実際に車いすに乗り、練習を重ねるにつれその魅力に引き込まれていった。風を切るような感覚、普通の車いすでは体験できないスピード、どれもそれまで体験したことのないものだった。そして、初めて大分国際車いすマラソンのハーフを完走したとき、いつかはフルマラソンに挑戦、そして完走したいと思った。

スタートの合図が鳴りレースが始まった。直後、緊張のためか思うように腕が動かず力が入らなかった。前の選手からはどんどん離れていき、最初の坂である舞鶴橋に着くころには周りには誰もいなくなっていた。橋の坂を登りきると心地よい疲労感と共に体に血がめぐる感じを覚え、ようやくいつものように腕を動かすことができるようになった。そこからは下り坂の勢いを利用し加速、そのスピードを落とさないようリズムを乱さずに走った。5キロ、10キロ、いくつ目の坂か、などを頭に入れつつ抜かれていた選手を抜いていった。その調子で走っているとハーフとのコースが分かれる地点を過ぎた15キロ付近、誘導員がコース上に立っているのが見えた。

結果は15キロ地点の関門で2分のタイムオーバーだった。

今回、残念ながら途中リタイアという結果になったが、その後で走った距離や時間を見ると今までで一番良い記録で走っていたことがわかり、少し嬉しかった。これまで、タイムが伸び悩んだ時期や調子の悪い時も勿論あったが、しかしそんな時、自分の可能性とそれを信じてくれる人達を信じて走ってきた。これからもそうして前に向かって走り続けたいと思う。そして次の大分では…

# ツインバスケットボール部の対外試合報告

ツインバスケットボール部は、毎週水曜日に練習に取り組んでおり、今年も2つの大会に参加しました。7月31日に別府市総合体育館（べっぷアリーナ）で開催された「第8回大分かぼすカップ 車いすツインバスケットボール大会」、9月11日・12日にかんぽの郷宇佐体育館で開催された「第22回九州車いすツインバスケットボール選手権大会」へ出場しました。

かぼすカップでは、沖縄フェニックス、長崎シャドウナイツと対戦しました。両試合とも大敗でしたが、実力に勝る両チームに胸を借り、よい実践経験を積むことができました。大会は、沖縄フェニックスが優勝し、2連覇を達成され、抜きん出た実力を発揮されました。

九州大会では、博多パトラッシュ、福岡WINGと対戦しました。いずれも、点差は大きく開かされましたが、連携したチームプレーもあり、練習の成果を垣間見せることができました。優勝は、この大会も沖縄フェニックス、準優勝は太陽の家ブレイカーズでした。特に決勝戦は、見応えある接戦で、すばらしいプレーの連続でした。

他チームの好試合を目の当たりにすることでも、大いに励みにすることができ、どちらの大会も有意義な経験となりました。

# 第3回"LESPO"ボッチャ教室&交流大会参加について

ボッチャクラブは昨年から活動を再開しましたが、自主的に他施設のボッチャクラブを見学し、大会参加に向けて練習に励んできました。参加できる公式大会は少ない中で、平成22年9月18日（土）に第3回〝LESPO〟ボッチャ教室&交流大会（太陽の家　サンスポーツセンター体育館）に参加してきました。

県内の障害者支援施設4施設10チームが参加する中、当センターからは2チームが参加しました。開会式後に競技やルール説明等の講習があり、いよいよ試合開始です。予選リーグは5チーム総当たりで、上位2チームが決勝トーナメントに進みます。当センターAチームは、初戦は緊張からペースがつかめずに落とすものの、その後は飛距離が劣る分を作戦でカバーして、3戦全勝し、予選2位で決勝トーナメント進出を決めました。またBチームは、残念ながら勝利はできなかったものの、投球距離が一番短い選手の一投で、優勝チームから1セットとる奮闘を見せました。決勝トーナメントの3位決定戦では、これまで経験のない長時間の試合参加や体育館の暑さ等もある中、善戦するも敗れてしまいましたが、4位の成績をおさめました。表彰式では、初出場4位のAチームが、見事敢闘賞に表彰されました。

参加した利用者の皆さんは、本大会参加者の中では、身体機能上は重度でしたが、日頃の練習成果を発揮して、〝自分たちでも十分戦える〟という自信につながる一日となりました。

# 文化祭

平成22年10月30日(土)に第19回となる文化祭を開催しました。予期せぬ台風の影響で開催が危ぶまれましたが、間近になり台風の進路が反れ、幸いにも天候に恵まれ、無事、予定通り開催することができました。「LET'S　NEXT　STAGE!」という言葉を今回のテーマに掲げ、利用者と職員による10名の実行委員を中心に準備を進め、地域の方々との交流を目的に行いました。訓練紹介、福祉機器の展示や体験、車椅子スポーツ体験、手織りやトールペイントの体験など利用者が来場者と交流しながら、様々な企画によりセンターの紹介を行いました。また、特別企画として、別府市立大平山小学校合唱部の皆さんには、まさに天使の歌声を感じさせられるような合唱を披露して頂き、別府青山高校書道部の皆さんには、楽しく華麗で迫力ある書道パフォーマンスを披露して頂きました。別府溝部学園短期大学介護福祉学科の皆さんには、様々な運営のご協力を頂き、本当に多くのボランティアの皆様に支えられ盛況のもと無事終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

別府青山高校書道部の皆さん

別府市立大平山小学校合唱部の皆さん

# ホタルの答礼

平成22年6月9日(水)当センターに竹田市立南部小学校から「友情のホタル」が届きました。そして、11月5日(金)には「ホタルの答礼」ということで当センター利用者3名と職員6名が南部小学校を訪問し、交流を行いました。

当日は児童や職員、関係者の皆様のお迎えのあと、歓迎会、児童の皆さんとのボッチャを通じての交流が行われました。昼食は5～6年生の教室で児童、職員、関係者の皆さんと学校給食をいただき、最後は児童の皆さんにお見送りをしていただきました。この交流が始まってから45年目になります。利用者や職員は入れ替わっていきますが、これからも続いてほしいものです。

ボッチャを通じての交流

# 職能訓練作品展

職能訓練では利用者の皆さんが制作した手織り及びトールペイント作品を、銀行や病院のロビー等で展示し作品発表を行っています。今回、霞ヶ関にあります「厚生労働省」内での展示について紹介します。この展示は平成18年、同省障害保健福祉部からの依頼により始まり、今年で4年目となりました。省庁舎内の展示箇所には他の施設の方が制作した絵画や写真などの作品も飾られており、多くの関係者の方に鑑賞いただいています。各作品は講堂につながる明るい渡り廊下を中心としたスペースに展示されており、平成22年8月には選りすぐりの作品9点の入れ替えを行いました。展示作品には説明カードを添え、制作期間や完成までのエピソードを紹介し、制作された方の様子が伝わるようになりました。シンプルな庁舎内がパッと明るくなったように思えるこの展示は今後も継続されます。また、トールペイント訓練で制作された新作「Welcomeボード」は障害保健福祉部の室内に飾っていただいています。

## 終了生の状況

（平成22年7月1日～平成22年12月31日）

| 復帰形態 | 家庭復帰 | 就職 | 自営・内職 | 現職復帰 | 就労支援施設 | 他施設 | 病院 | 進学 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人　数 | 14 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 18 |
| 比率（%） | 78 | 0 | 0 | 0 | 5.5 | 11 | 5.5 | 0 | 0 | 100 |

## 職　員　異　動

**平成22年9月1日付**

**○　新規採用**　医務課介護員　　手嶋隼也（任期付職員）

## 利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設として、自立訓練（機能訓練）を中心とした様々な支援により、重度の肢体不自由の方（主に頸髄損傷等による四肢麻痺者）の社会復帰を支援しています。

利用できるサービスは以下のとおりです。

○自立訓練（機能訓練）

理学療法、作業療法、運動療法、職能訓練です。

利用期間は、利用開始後の評価等に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者自立支援法上の標準利用期間は1年6ヶ月です。（「頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は3年間」）

○施設入所支援

自立訓練（機能訓練）を利用される方で、通所が困難な方は、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用も可能です。

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、以下までご相談ください。

**お問い合せ先**

国立障害者リハビリテーションセンター　自立支援局

**別府重度障害者センター　支援課**

住所　〒874-0904　大分県別府市南荘園町2組

電話　0977-21-0182（相談・受付窓口直通）

FAX　0977-21-2794

E-mail　soudan@beppu-nrh.go.jp　　http://www.beppu-nrh.go.jp

企画　別府重度障害者センター庶務課　　発行　〒874-0904　大分県別府市南荘園町２組　TEL0977-21-0181